総会ウォーク（旧富士馬車鉄道路線を歩く）

2018.01.21　12km　ゆったり 5.5km

コース

往路（JR）　富士宮駅＝＝富士駅（WC・体操）
8:39　8:58～9:30

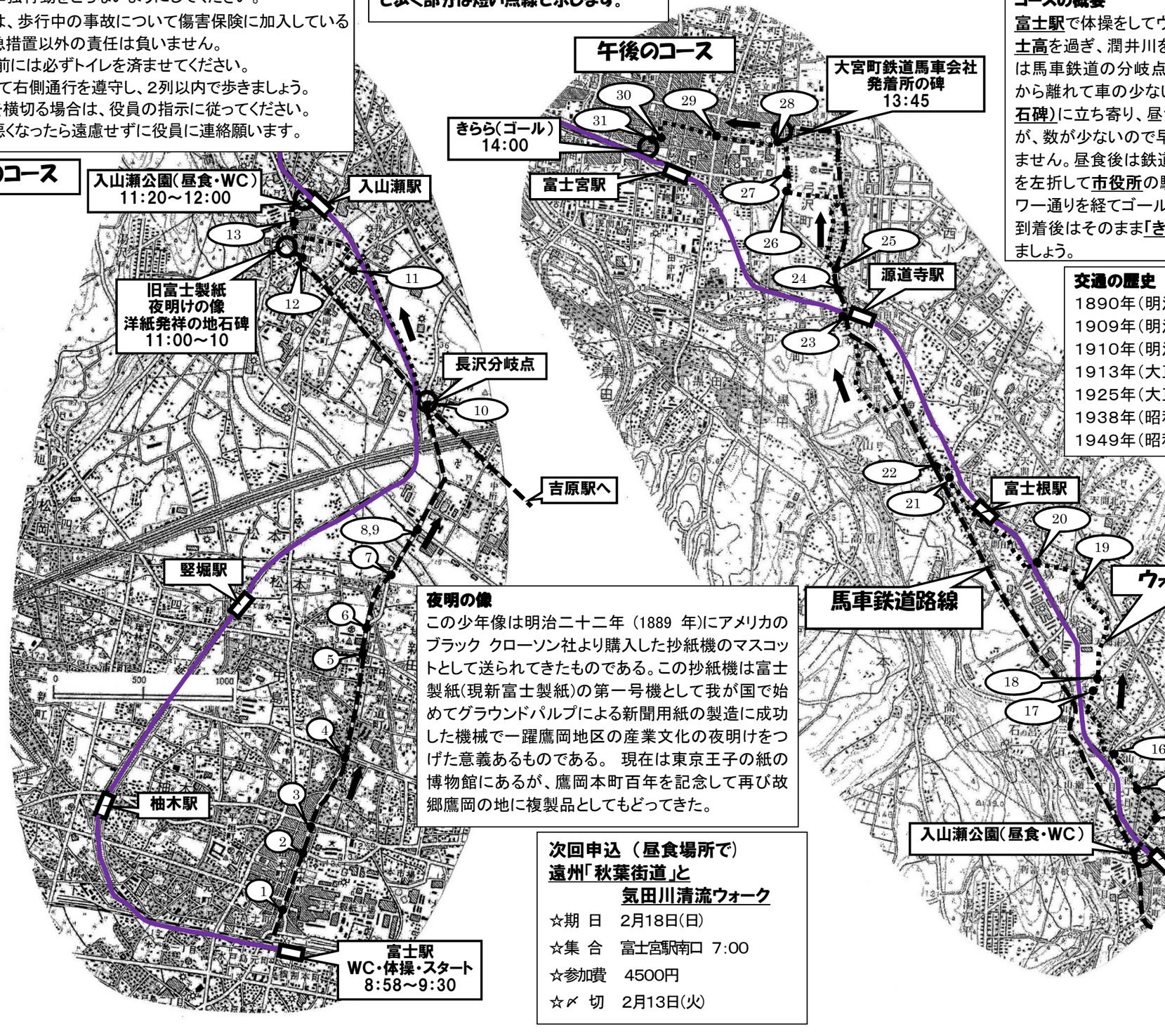
ウォーク　富士駅・・・旧富士製紙跡・・・入山瀬公園（昼食・WC）・・・大宮町発着所跡・・・きらら
9:30　11:00～11:10　11:20～12:00　13:45　14:00

＊入山瀬駅発富士宮行き　11:22　11:48　12:24　12:51

参加者の皆様へ

- 無断で単独行動をとらないようにしてください。
- 主催者は、歩行中の事故について傷害保険に加入している他は応急措置以外の責任は負いません。
- スタート前には必ずトイレを済ませてください。
- 原則として右側通行を遵守し、2列以内で歩きましょう。
- 一般道を横切る場合は、役員の指示に従ってください。
- 体調が悪くなったら遠慮せずに役員に連絡願います。

鉄道路線は長めの点線で、路線を離れて歩く部分は短い点線で示します。



交通の歴史

1890年（明治23年）　富士馬車鉄道着工　鈴川駅～大宮　14．1km
1909年（明治42年）　東海道線・富士駅開設に伴い、馬車鉄道・長沢より分岐
1910年（明治43年）　富士軌道、大宮より上井出・人穴へ延伸19km
1913年（大正　2年）　富士身延線開通
1925年（大正14年）　富士馬車鉄道廃止
1938年（昭和13年）　富士軌道廃止
1949年（昭和24年）　岳南鉄道開設

コースの概要

富士駅で体操をしてウォーク開始です。富士本町通りを富士宮方面に向かって進みます。富士高を過ぎ、潤井川を渡り、東名高速道路のガードをくぐると、長沢交差点に着きます。ここは馬車鉄道の分岐点で、右に向かうと鈴川駅（現吉原駅）に至ります。ここからは鉄道路線から離れて車の少ない道を歩き、入山瀬駅近くの旧富士製紙跡（夜明の像、洋紙発祥の地石碑）に立ち寄り、昼食場所の入山瀬公園に向かいます。入山瀬駅のトイレもお借りしますが、数が少ないので早めに効率よく済ませてください。午後は緊急時を除きトイレ休憩はありません。昼食後は鉄道路線から離れて歩きやすい道を中心に行きます。富岳館高校の手前を左折して市役所の駐車場を通り、ミニストップ裏にある大宮町発着所跡の石碑を見てフラワー通りを経てゴールの「きらら」に向かいます。
到着後はそのまま「きらら」で平成30年の総会です。楽しいイベントですからみんなで参加しましょう。

富士馬車鉄道と製紙

明治23年（1890年）、静岡県で初めて、全国でも6番目の馬車鉄道が富士地域で走った。明治38年（1905年）には、客車17両、貨車99両も持っていた。馬車は1頭立て12人乗りであった。交通運輸機能の鈴川駅周辺への集中に拍車をかけたのは、東海道線開通とほとんど時を同じくして開業した入山瀬の富士製紙株式会社の影響が大きかったのである。富士地区は生産用水と工場の動力源としての豊富な水資源が注目され、明治23年（1890年）に東京の富士製紙会社が潤井川流域の入山瀬に工場を建設し、富士市域で初めて洋紙の製造を行った。富士製紙の社長「河瀬秀治」は東海道線が開通して間もない時期に富士馬車鉄道を設立した。このころまでに創業した多くの製紙会社が今日の「紙のまち」としての富士市を形成する土台となった。

夜明の像

この少年像は明治二十二年（1889 年)にアメリカのブラック クローソン社より購入した抄紙機のマスコットとして送られてきたものである。この抄紙機は富士製紙(現新富士製紙)の第一号機として我が国で始めてグラウンドパルプによる新聞用紙の製造に成功した機械で一躍鷹岡地区の産業文化の夜明けをつげた意義あるものである。 現在は東京王子の紙の博物館にあるが、鷹岡本町百年を記念して再び故郷鷹岡の地に複製品としてもどってきた。

次回申込（昼食場所で）
遠州「秋葉街道」と
気田川清流ウォーク

☆期　日　2月18日(日)
☆集　合　富士宮駅南口 7:00
☆参加費　4500円
☆〆　切　2月13日(火)

緊急時連絡
宇佐美武幸　090-7025-9607
佐野　照美　090-3584-5522